

平成29年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	ヒト由来Bリンパ球を利用した迅速抗HLAモノクローナル抗体作製グループ (支援期間：平成29年度～平成29年度)			
大学名	所属		氏名	
金沢大学	医薬保健研究域医学系		◎高松 博幸	
金沢大学	医薬保健研究域医学系		中尾 眞二	
富山大学	大学院医学薬学研究部		○小澤 龍彦	
富山大学	大学院医学薬学研究部		岸 裕幸	
注1. 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印を、研究グループ代表者には◎印を付してください。 注2. 所属（その他の機関については職名も）については、平成30年3月末現在を記入してください。				
その他の機関 の構成員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
成果概要	<p>血液内科の臨床では、経産女性や輸血経験者の中に抗HLA抗体陽性の患者を診断する機会がある。そのような抗HLA抗体陽性患者の体内には抗HLA抗体産生リンパ球が存在することは確かであるが、そのリンパ球を末梢血中から分離することは一般的には極めて困難と考えられていた。富山大学大学院免疫学のグループが、抗体産生リンパ球を単離する方法として、微小チップを用いた方法(Nature Medicine 2009; 15:1088)を開発した。我々はその方法を使用して、診断用抗HLAクラスI抗体(抗HLA-B61抗体、抗HLA-A24抗体)の作製に成功し、特許出願と論文発表を行った(特願2016-176718、Blood 2017; 129:2908)。また、その抗体は悪性リンパ腫や骨髄腫細胞を傷害することも確認したため(2017年米国血液学会、Abstract #2069)、治療薬としても臨床応用が可能である。さらに、B細胞などの一部の血液細胞にのみ発現しているHLAクラスII抗原に対するモノクローナル抗体は、B細胞腫瘍の有望な治療薬になり得るため、本連携研究を継続している。</p>			
獲得した外部 資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30基盤研究(C)(一般)(H30～H32)、患者B細胞を用いたモノクローナル抗体作製とその臨床応用、高松 博幸(代表)、5,000千円採択。</li> <li>・持続可能なネットワーク型中部先端医療開発拠点の形成に係る研究開発委託費、2017年度、「抗HLA抗体陽性ドナーリンパ球を用いた抗HLAモノクローナル抗体作製法の確立と抗HLA抗体の診断・治療への臨床応用」、高松 博幸(代表)、中尾 眞二(分担)、2,000千円採択。</li> </ul>			